

問一

外国語を懸命に学ぼうちに、母語によって形成されてきた自分の枠組みから解放され、新たに別のまっさらな自分が生まれ出るような感覚を得て、幸福にひたる状態。  
（解答欄 3 行）

問二

人から評価されずとも、自らを賭けて取り組める将来の道へと自らを追い込んで自身を鼓舞しようとする心情。  
（解答欄 2 行）

問三

母語とは異なる言語を習得する過程は、母語においてはすでに陳腐化していた言葉の一つ一つに、全く異なる名を与えていくという新鮮で魅惑的な営みだということ。  
（解答欄 3 行）

問四

既存の言葉の意味を自明視すると、賢さと「頭」、幸せと「お金」を結び付けてしか考えられないが、外国語を学びその自明性を再考して言葉の意味を掴み直した気になっても、言葉の意味や言葉相互の関わりが豊かな可能性に開かれていることを痛感させられることになるから。  
（解答欄 5 行）

問一

実在の自然物を用いる造形芸術は、文芸音楽とは違い、自然的变化に伴う破損による永遠性の喪失を免れないから。  
（解答欄 2 行）

問二

自然物からなる美術作品は、時代経過の中で破損にもつながら自然的な変化が人為を超えた価値を生みもするため、それらを考慮に入れた保存や鑑賞が求められるから。  
（解答欄 3 行）

問三

複雑な自然現象のもとで表現される芸術は、そうした自然現象を説明する科学の普遍的な方法を援用することでこそ、再現が可能となって破損の恐れから救われ、永遠性が保証する芸術の本質的価値を保存できるということ。  
（解答欄 4 行）

問三

「いづくも」という表現に端山や奥山だけでなく里でも桜が咲いていないという意味が含まれているということ。

(解答欄 2 行)

問二

「実の理」は、「山は奥まるほど気温が低く桜の開花も遅くなる」という自然の摂理で、「作者の見る心」は、その自然の摂理を忘れて、「里ではまだだが奥山では咲いているかもしれない」と期待する心で、この二つを区別して和歌の意味を説明するべきだということ。

(解答欄 5 行)

問三

和歌に詠まれている道理がはっきりしない。山に深く分け入っていくことも意味がなくなってしまう。

(解答欄 2 行)